のぞいてみよう！せんだいの歴史　ゆかりの絵画編

伊達家の姫が推し活!?

仙台市博物館　学芸普及室　水野 沙織

第17回

「村子姫霊夢図」とは？

夜、灯明のもと、文机で読書する若い女性と、見守るように背後に立つ中国風の衣服を着た青年。2人の背景には巻き上げられた御簾、梅が描かれた屏風、本が積まれた棚が描かれ、中央下部に松が配置されています。衣服や文机・書棚の模様も緻密です。

この「村子姫霊夢図」は、仙台藩5代藩主伊達吉村の次女・村子（和姫）が見た夢を題材とし、絵を狩野古信が描き、絵の内容を説明する賛を林信篤（鳳岡）が書いたものです。古信は幕府御用を務める木挽町狩野家の跡取り、信篤は幕府の湯島聖堂（のち昌平黌）をつかさどる大学頭を務めた高名な儒学者です。

学問好きな姫が見た夢

宝永四年（一七〇六）、伊達家の江戸屋敷で生まれた村子は、8歳の時、のちに岡山藩3代藩主となる池田継政と婚約します。村子は幼い頃から読書を好む聡明な少女でした。また、能筆で知られ、塩竈神社には13歳の村子書の額が3面も奉納されています。

池田家へ嫁ぐ前年、享保六年（一七二一）2月17日の夜、16歳の村子は夢を見ました。孔子の弟子で秀才と名高かった顔回（顔子・顔淵）が現れ、村子に「あなたの徳の力は祝福するべきものです。そんなあなたに切磋琢磨と唱えてあげましょう。これからも自分を磨くのですよ！」と告げました。

実際、村子は顔回に憧れていて、夢に「推し」が登場したのです。現代風に言えば、「マジ尊い」です。この話を聞いて（たぶん）喜んだ父・吉村は、仙台藩の儒学者芦東山に村子へ儒教の経書の一つ「大学」の講義をさせました。また、この絵の賛を書いた林信篤が吉村に出した手紙から、村子の強い希望によって父・吉村が絵の制作を発注したことが分かっています。つまり村子は夢で見た自分と「推し（顔回）」との、いわば「ツーショット絵画」を父に頼んで入手したことになります。狩野派絵師と、当代一の学者の合作は、村子にとって最高の宝物だったことでしょう。今も昔も「推し」への愛や父娘の関係は変わらないようです。

この作品は残された資料から制作の過程をたどることが可能で、他家に輿入れした伊達家の姫君が描かれている絵画として貴重なものです。

伊達家の姫君の「推し活」を現代に伝える絵画。視点を変えて見れば、絵画がもっと楽しめるかもしれません。

今回紹介した作品は仙台市博物館ホームページの「収蔵資料データベース」からご覧いただけます。

「村子姫霊夢図」　享保6年（1721）　仙台市博物館蔵

重要美術品　萩に鹿図屏風（左隻）　展示期間：11月5日～12月21日

2025年
秋の常設展
12月21日(日)まで開催中

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

詳しくは博物館ホームページをご覧ください。

仙台市指定文化財　水玉模様陣羽織
展示期間：11月18日～12月14日

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地〈仙台城三の丸跡〉
【観 覧 料】一般・大学生460円、高校生230円、小・中学生110円
【開館時間】9:00～16:45（入館は16:15まで）
【休 館 日】毎週月曜日、年末年始（12/28～1/5）
TEL：022-225-3074　博物館X：@sendai_shihaku